

第11号

中病だより

島根県立中央病院広報誌 2010.8

〒693-8555 島根県出雲市姫原四丁目1番地1

TEL 0853-22-5111 FAX 0853-21-2975

Mail spch@spch.izumo.shimane.jp

URL <http://www.spch.izumo.shimane.jp/>



題字 岩成 治

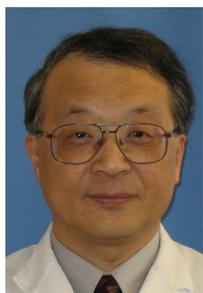
写真 西村憲幸

～ 目次 ～

- | | | | |
|---|-----|-------------------------------|-----|
| ★北京市の病院視察報告
病院長 中山 健吾 | …P1 | ★後期研修を終えて
外科 医長 青木 恵子 | …P5 |
| ★IVR治療とは
中央診療部長 安井 清 | …P2 | ★病院ボランティア「ハーモニー」
代表 米原 ゆきみ | …P6 |
| ★「にこにこ保育所」の開設について
～子育て職員の負担軽減を困って～
事務局長 布野 典男 | …P3 | ★突撃取材!!(島根県防災航空隊) | …P7 |
| ★フライトナースについて
救命救急センター 副看護師長
市場 明美 | …P4 | ★外来診療担当表(H22.8.1現在) | …P8 |
| | | ★編集後記 | …P8 |

北京市の病院視察報告

病院長 中山 健吾



今回の北京訪問の目的は第一に北京市昌平区(人口は100万人くらい)の中核病院である昌平区病院と友好病院協定を締結すること、第二は中国を代表する2つの超一流病院との連携を図ることです。

昌平区病院とは2年前から交流があ

り、病床数は500床ほどですが、数年後には1000床にする予定で病棟を新築中でした。自院の発展のために当院から学びたいという強い熱意と潜在的なエネルギーを感じましたので、将来を見据えて4年間の友好病院の協定を正式に締結してきました。

第二の目的は、政府が「超一流病院(三級甲の病院)」と認定した北京安貞病院と日中友好病院の視察と

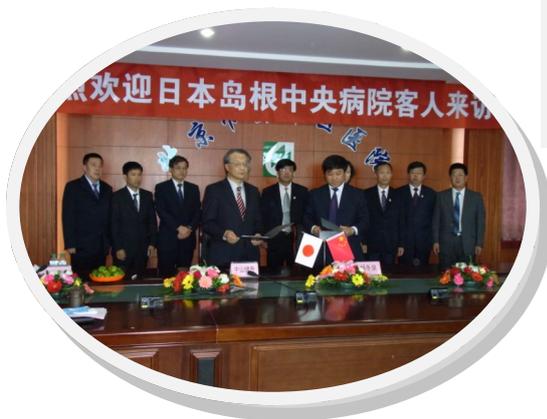
意見交換です。当院の電子カルテシステムやITを活用した遠隔画像診断支援システム、病院運営システムなどを紹介しました。中国では、まだITの活用についてはオーダーリング+α程度のシステムであり、当院の病院運営システムや医療情報のネットワークに強い興味と高い評価をいただきました。

二つの病院訪問の概要と感想を紹介します。北京安貞病院は首都医科大学の附属病院で心臓、大血管、呼吸器疾患の専門病院で、ベッド数1062床で心臓血管外科専門病棟があります。年間手術例は心臓・血管手術で約5000例、呼吸器疾患手術で約1000例です。当院の全ての診療科の年間手術数が4000例弱ですので、その数は驚きです。外来患者数は1日平均4000人(当院は1200人)で、診察や検査を待つ患者や付き添いの家族で病院内は大混雑でした。中国では「信頼できるクリニック」は少なく、患者の大病院志向が日本以上に強いため中核病院に殺到しています。また、専門医の外来診察料は通常の10倍、フィルムは患者自身が保管する、個人情報あまり気にしないなどの違いもあります。最新鋭のCTがありましたが、それは東芝製でした。またフィルム袋にも「日本製の医療機器で撮影した」と明記され、医療関係者だけでなく患者、市民の「made in Japan」への信頼を強く感じました。

日中友好病院は日本の無償資金援助(ODA)で1984年に建設されたベッド数1315床、外来患者数1日平均5000~6000人の大病院で、安貞病院とは違い中国伝

統医学と西洋医学が共存した総合病院です。この病院では、驚くことに「一般病棟や外来」とは別に、外国人、中国要人のVIP専門診療が堂々となされています。これは日中友好病院が政府直轄の病院であることも反映していると思われます。中国の医療制度はアメリカに似ていて、日本のように「国民全員に均等で公平な医療を提供しなければならない」ではなく、「受けられる条件にある患者に医療を提供すればいい」と感じました。人口13億人の国で、まだまだ医療の基盤整備が途上にあります。少なくとも中国政府の病院管理部門の幹部はセーフティーネットとしての医療制度、病院管理のシステム設計を考えているようです。

今後の交流の中で、当院で運用している電子カルテシステム、病院物流、医療安全、医療訴訟への対応などの病院マネジメントについて、情報提供していく機会が増加するのではないかと思います。



IVR治療とは

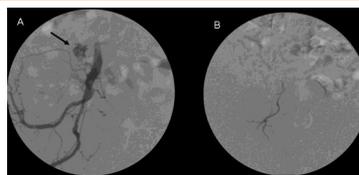
中央診療部長 安井 清



夜中、突然病院から電話が入る。救命科の医師からである。

患者は交通外傷で骨盤骨折、ショック状態、緊急血管塞栓術を依頼したいとのこと。急いで病院まで車をとばす。救命するためには血管の中にカテーテルという細い管を入れて止血する必要があると家族に説明し、血管造影室に入る。大腿動脈からカテーテルを挿入し、骨盤部の動脈造影を行ったところ骨盤の動脈が破裂し、お腹の中に出血していた。この破裂した動脈に塞栓物質を注入して無事止血できた。(写真1)

このような治療をIVR治療と言う。IVRとは



(写真1)

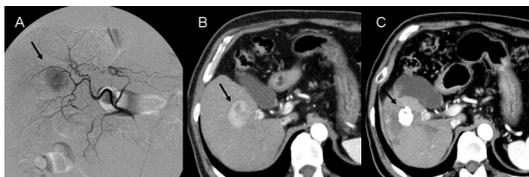
A) 塞栓術前の骨盤の動脈造影。出血(矢印)が見られる。
B) 塞栓術後出血は消失している。

Interventional Radiologyの略で、適当な日本語がないのでIVRとっている。中国では介入放射科というのである。IVRとは簡単に言うとCTやX線画像をガイドにカテーテルなどを使って治療(手術)を行うことである。誤解をおそれずにいうと切らずにすむ手術である。我々はこのIVR治療を年間約300例におこなっている。このIVR治療は血管の中にカテーテルという細い管を挿入して治療を行う血管系IVRとそれ以外の非血管系IVRに分け

られる。

冒頭の症例は前者の例である。他に血管系 I V R の代表例に肝臓癌に対する化学塞栓術がある。

(写真2)



(写真2)

- A) 肝臓の動脈造影で癌が描出されている(矢印)。
- B) 化学塞栓術前のCTで癌が見られる。
- C) 術後CTで抗癌剤が癌の中に入り、癌は縮小している。

本症に対するカテーテル治療は本邦で確立された治療法であり、I V R の代表選手である。

化学塞栓術とは血管豊富な肝臓癌の栄養血管にマイクロカテーテルという糸のように細い管を入れて抗癌剤を注入してさらに微粒子で血管を塞栓する。すなわち癌を抗癌剤でいじめて、さらに血管を詰めて‘兵糧攻め’にして高い治療効果をあげるわけである。

次の例を紹介しよう。Bさんは突然血を吐いて倒れた、Bさんは以前よりお酒のみで、酒が原因で肝硬変と言われている。そこで救急車で救急室に搬送された。緊急内視鏡をしてみると胃の中の静脈に瘤ができる胃静脈瘤があり、これが破裂していた。そこでまた我々に連絡が入り、カテーテル治療が依頼された。

そこで我々がとった治療法はB R T O (Balloon occluded retrograde transcaval obliteration) といい、大腿静脈から先端に風船のついたバルンカテーテルを破裂している胃の静脈瘤内に挿入し、カテーテルから硬化剤を封入して静脈瘤を固めてしまう方法である。(写真3)

この治療により静脈瘤からの出血は止まり、Bさんは無事退院することができた。

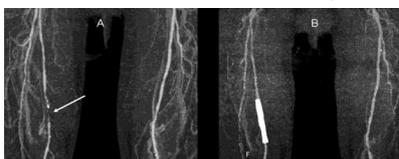
これまで述べてきたのは血管を詰めて病気を治すことであるが、反対に血管を広げて治療する場



(写真3)

- A) BRTO。バルンカテーテルから胃の静脈瘤に硬化剤を注入している。
- B) BRTO前の内視鏡写真。胃静脈瘤がみられる。
- C) 術後静脈瘤は消失している。

院を受診され、CT検査を受けたところ、足の動脈が狭くなっていることが判明した。慢性閉塞性動脈硬化症である。そこで我々にカテーテル治療が依頼された。大腿動脈からカテーテルを挿入し、狭くなった大腿部の動脈に拡張性のある金属ステントを留置した。



(写真4)

- A) 大腿部の動脈造影。動脈が閉塞している(矢印)。
- B) ステント治療後。

(写真4)

この治療により下肢の血流が改善し、Cさんは楽に歩けるようになった。

次に非血管系 I V R の例を紹介しよう。

Dさんは肺癌検診で肺に小さな影があると言われた。C Tをとってみると肺のへりのほうに100円硬貨ほどの大きさの影が映っていた。そこで我々にC Tガイド生検の依頼があった。C Tガイド生検とはC Tをとりながらその画像をガイドに針を進めて、命中させて組織を採取し、病理検査を行うことである。この方法でDさんは開胸手術をすることなく局所麻酔だけで肺癌の病理診断をつけることができた。(写真5)



(写真5)

- 生検針が肺の影(癌)に命中している。

まだ他にもいろいろな I V R 治療や検査があるが、紙幅の関係で省略する。われわれ放射線科医の仕事が少しでもわかっていただければ幸いです。

「にこにこ保育所」の開設について

～子育て職員の負担軽減を図って～

事務局長 布野 典男



近年、全国的な勤務医師・看護師等の医療従事者不足などの影響により、病院の一部診療科や一般病棟の休止を余儀なくされるなど、地域医療が危機に直面しています。県内でも、特に県西部や中山

間・離島地域を中心に、地域医療を取り巻く環境はますます厳しくなっています。

中央病院は県の基幹病院として、質の高い医療を提供するため日々努力をしていますが、医師・看護師をはじめとした医療従事者の不足は当院も例外ではありません。

こうした状況の中、出産や子育てを理由とした離職を少しでも食い止め、子育て中の職員が安心して仕事を続けることができる職場環境を整備することは、医師・看護師等の確保対策の一つとしても、病院の大きな責務であり、本年3月、当院敷地内に職員専用の院内保育所を開設したところです。

院内保育所の運営については、病院職員が子育てをしながら安心して仕事を継続していくことができるように、夜勤や日曜日出勤など特殊な勤務形態に合わせた保育時間を設定しました。

また、医師や看護師など専門職員にとっては、日進月歩の医療現場から長期間離れることに対する不安が大きいことから、0歳児保育をはじめ、年度中途からの保育所入所にも柔軟に対応し、早期の職場復帰を支援しています。



院内保育所は、

「子供達が元気に育ち、仲良く、にこにこ過ごすことのできる保育所となるように」

「預ける職員も、笑顔で働くことのできる安心感のある保育所となるように」

という思いを込め、愛称を「にこにこ保育所」としたところです。

患者さんやご家族の皆様にも、安心感、信頼感を感じていただけるよう、病院職員自身が「笑顔」を絶やさないように努め、今後とも地域の皆様、県民の皆様からさらに信頼され、必要とされる病院を目指して一層の努力を続けてまいります。



フライトナースについて

救命救急センター 副看護師長 市場 明美



島根県は東西に長く離島もあり、地域格差による救急医療体制が危惧されています。離島という事情から隠岐からはヘリコプターによる傷病者の搬送が以前から行われています。しかし県西部や中山間地の県民の皆様が重症となった場合には救急車で長距離を長時間かけて救急医療機関に行かなければならず、病院に行っても重症度によってはさらに高度医療機関へ転院搬送されるケースも少なくありません。

当然の事ながら傷病者が重症であればあるほど、いかに早く適切に治療を開始するかが、予後に大きく関係します。救急医療対策の一環とし



て、医師が現場から治療を開始することによって救命の可能性を高めること、広域的急患搬送に対応するため、島根県でも平成23年度中のドクターヘリ運航を目指して、準備が進められています。

ドクターヘリには看護師（フライトナース）も同乗します。フライトナースは、医師と共にヘリコプターで病院を飛び出し、医療環境の整っていない救急現場での看護の実践や重症患者のヘリコプター搬送を行います。それは施設内で働くという看護師の概念を超え、より専門性をもった職種として存在することになります。

フライトナースには、医師や現場の救急隊員、運航スタッフと協働して患者さんに必要な治療が、高度医療機関に收容されるまで安全かつ継続的に行えるだけのスキルが求められます。患者さんに対して適切なアセスメントを行い、身体的・精神的な看護を実践していかなければなりません。また、リーダーシップの能力も求められます。



フライトナースの準備は始まったばかりです。現在、6名のフライトナース候補者が、ドクターヘリ講習会や救命処置講習会の受講、他施設や消防署への見学、救急車の同乗や処置の見学と実施など様々な研修を受け、自己研鑽に努めています。

突然の病気や外傷など予期せぬ出来事が発症した患者さんは緊急度や重症度は高く、身体的にも精神的にも危機的な状況に置かれています。また家族の方も同様にショックは大きくストレスも大きいことが予想されます。その中でフライトナースは自分が学んだ技術や知識を活かし、患者さん・家族の方に寄り添い、救急現場の第一線で活躍できることを期待しています。



後期研修を終えて

外科 医長 青木 恵子



私は島根県立中央病院で、初期臨床研修医2年、外科後期研修医3年を終え、現在は外科スタッフとして働いています。初期臨床研修医制度が始まり、2年目でしたので、私も大学6年生の時は、都市の有名病院などたくさん見学しました。いろいろ見学した中で気付いたことは、「良い研修ができるかどうかは、結局は自分のやる気次第だ」ということでした。そして、悩んだ末、地方の中核病院で、三次救急まであり、症例も豊富である、実家近くの島根県立中央病院を選びました。診療科は決まっていなかったのですが、初期研修で各科をローテートした結果、外科を選ぶことにしました。手術件数が多く、スタッフも皆、指導熱心で優しく、外科医としての重要な時期となる後期研修の場としては、迷わず当院を選びました。

当院外科（消化器・乳腺）の年間手術件数は外科が約900例、乳腺科が100例です。それに加え、1年間は小児外科も兼任しました。私が後期研修医3年間で経験した手術症例総数は、780例でした。これ

は、外科専門医を取得するためには十分すぎるほどの数であり、この3年間は非常に忙しい毎日でしたが、充実していました。全国的な外科医不足に加え、多くの研修医が大都市の病院に行ってしまい、地方に残る研修医が少ない分、経験できる症例としては他の病院より圧倒的に多く、多岐にわたっています。緊急手術も多く、年間180例程度です。緊急手術としては、虫垂炎はもちろん、ヘルニア嵌頓かんどんから絞扼性イレウスこうやくせい、また、当院では三次救急まであり、外傷手術にも携わります。

外科では、もちろん手術だけではなく、癌化学療法や緩和ケアも行っています。手術や外来、検査など、忙しい毎日ながらも、患者さんがどんどん元気になっていかれる姿や、笑顔で退院される姿をみると、疲れも吹き飛びます。

私は、この島根県立中央病院で新米医師として働き始め、上司をはじめ、コメディカルスタッフに多くのことを学び、成長してきました。その中で、自分自身が患者家族となり、多くの方に支えられたこともありました。本当にいろいろな経験をし、成長

できたと思います。現在では6年目となり、まだまだ学ぶことはたくさんありますが、初期研修医や後期研修医を指導する立場になり、改めて、教えることの大変さを感じています。島根県立中央病院で育ち、成長させてもらった分、恩返しとして、今後も島根の医療を支えるべく、頑張って診療に携わっていきたいと思います。



医学生の皆さんへのメッセージ

学生の頃は都会の有名病院に憧れていましたが、実際は、自分のやる気次第ということに気がきました。どの病院に行っても、結局は本人のやる気次第で、いろいろなことが学べると思います。外科医は、経験症例数がものをいいますので、地方の中核病院などで、一般的な手術をたくさん経験し、着実に腕を磨いていくのが一番良いと思います。その上で、専門分野を決め、極めていってはどうでしょうか。

また、当院はアットホームな雰囲気、どの診療科の先生にも相談がしやすく、非常に指導熱心です。

是非、島根県立中央病院で研修を！

病院ボランティア「ハーモニー」

代表 米原 ゆきみ



新病院の開院と同時に発足した「病院ボランティアハーモニー」は今年で12年目を迎えます。

前代表からバトンを受け継ぎ早や1年。先日、総会を終えました。中山病院長、松尾看護局長さんから「ハーモニーは今では病院の顔となっており、なくてはならない存在で、今後も頼りにしている」と、身に余るお言葉を戴きました。病院の信頼を損なう事のない様に常に心して活動し、今後は研修などでスキルアップを計りたいと思っています。

残念ながら会員が減り、現在33名、患者さんにより細やかな心配りができればと、会員募集中です。ご一緒に活動しませんか？

午前には主に玄関ホールで来院の患者さんの対応をしています。先日花を活けていたら、「きれいなあじさいですね、いつもここの花を楽しみにし



ています」とうれしいお声を掛けて頂きました。雨風の強い事で知られるこの地で、駐車場の行き来が大変な患者さんや特に赤ちゃんをお預かりして喜んで頂いています。

午後は入院患者さんを病棟にご案内するという大切な活動があります。長時間お待たせする事のない様、出来るだけ早く病棟に。という考えから私達がお案内するようになりました。見晴らしの良い「食堂」（遠く三瓶山が望めます）に着くとホッとされ「お大事になさませ」とご挨拶すると「お世話になりました」と感謝の言葉をおっしゃられます。無事、ご案内できて一安心のひと時です。



七夕には、病院敷地内の竹やぶから切って来て頂いた大きな笹飾りを2本ホールに立て、患者さん



にも短冊に願い事を書いて結んでいただきました。500枚近くの短冊にずっしり重くなりました。

冬には、大きなクリスマスツリーがホールを飾ります。

ボランティアとして少しでも患者さんの為に来ることをと始めた活動ですが、今では自分達が受け取るものの方が大きいと感じています。

健康で活動出来る事に喜びを感じながら今日も笑顔でホールに立つ平均年齢「アラカン」の私達です。



突撃取材!!!

今回の取材先は、
「島根県防災航空隊」
です。



島根県防災航空隊
林 剛 隊長

ヘリコプターによる緊急患者搬送については、防災航空隊の御協力のもと、10年以上前から行っています。西部地域からの搬送を開始して半年（新生児搬送に関しては1年）が経過し、より多くの方に知っていただけるよう防災ヘリの活動状況等を取材しました。

Q：防災ヘリはどのようなときに出動しますか？また、どのような体制ですか？

A：防災ヘリは、「救急」・「救助」・「火災防御」・「災害応急対策」という活動を主に島根県内で行っています。他県から要請があれば、応援出動する場合があります。

人員は、常時10名程度で、救急活動の際、防災ヘリには、パイロット1名、整備士1名、隊員2名の計4名で出動します。

Q：防災ヘリの性能等を教えてください。

A：防災ヘリは、通常は、速度約120ノット（時速240km）、高度はだいたい1000フィートから1500フィート（約300～460m）で巡航しています。

例えば、出雲から益田までだと、およそ35分から40分で行くことができます。



Q：普段から気を付けていることや、大変だったことはありますか？

A：とにかく、安全が一番だと思っています。気象条件、状況判断には気を付けています。それと少しでも早く現場へ到着するよう努力をしています。

大変だったことは、気象条件が悪いときや患者さんが急変されたときの運航です。

Q：最後に、これからの救急活動において、どのようなことが必要だと思いますか？（病院との連携など）

A：防災ヘリを待っている患者さんのために、関係機関とよりいっそう連携を深め、安全で迅速な患者搬送を行うことだと思います。

これからも患者さんや救助者等のために頑張りたいと思います。



【H22.8.1現在】

外来診療表【一般(初診)】

診療科	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
総合診療科	○		○		○		○		○	
歯科	○		○		○		○		○	
小児科	○		○		○		○		○	
整形外科	○		○		○		○		○	
形成外科		○			○				○	
心血管外科	○				○				○	
小児外科			○				○			
外科	○		○		○		○		○	
乳腺科	○		○		○					
脳神経外科	○		○		○		○		○	
呼吸器外科					○				○	
腎臓科	○		○				○			
泌尿器科	○		○		○		○		○	
産婦人科	○		○		○		○		○	
精神神経科	○		○		○		○		○	
神経内科	○	○	○		○		○		○	
呼吸器科	○					○	○			
循環器科	○		○		○		○		○	
消化器科	○		○	○	○		○			
リウマチ・アレルギー科	○			○	○		○		○	
血液腫瘍科	○				○		○		○	
内分泌代謝科	○		○		○	○	○		○	
皮膚科	○		○		○		○		○	
耳鼻咽喉科	○		○				○		○	
眼科	○		○		○		○		○	

編集後記

中川正久島根県病院事業管理者は、全国自治体病院協議会で「それぞれの地域における自治体病院の役割は違う。行政、医療関係者、住民が協力し、知恵を出し合って社会的共通資本である医療を、皆で守らなければいけない。」と述べています。中病だよりでは、島根県立中央病院が、具体的にどのように役割を果たしているのかを、一つひとつ記事にしている状況です。この11号までに多くの記事を載せてきましたが、まだまだ紹介足りない分野を多く残しております。今後の展開を見守り、応援してください。【K.T.】

「中病だより」11号が完成しました。今年度は、多くの方に読んでいただけるように、わかりやすさ、掲載する情報などを検討し、工夫をしていきたいと思っています。

今後も島根県立中央病院の情報を発信していきますので、よろしくお願いします。【Y.Y】

「中病だより」は、以下のURLからもご覧いただけます。
<http://www.spch.izumo.shimane.jp/annai/kohoshi/index.html>